

なきごえ



1968

2

大阪市
天王寺動物園協会

大阪府下の野猿

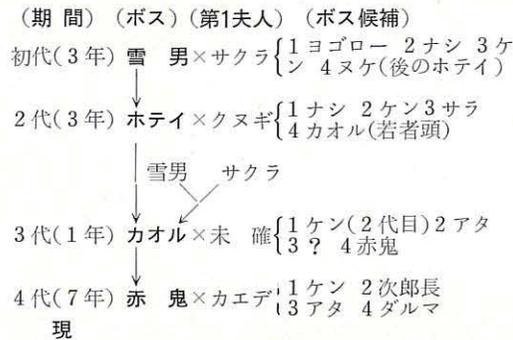
みのお 箕面のボス猿

ボス (boss) という言葉には嫌な印象を覚えます。辞書には支配者、親分、牛耳ると、解釈されていますから、人間社会においては搾取的な意味を伴うからでしょう。しかし、動物の社会に使われると、とても愉快的な感じを受けます。

この言葉は戦後急激に普及したようです。これには猿の生態の研究グループが、個体の識別のために盛んに用いたことも一役買っているようです。言葉の由来はこれ位にして、箕面のお山のボスについてお知らせしようと思います。

昭和29年に餌付けられたのですから、今年で14年になります。この間にボスがどのように移り変わっているかと云うことを飼育主任の伴藤嘉敬さんから聞いた話を中心に紹介しましょう。

図表に示しますと



第1代の雪男は稀に見る立派な体格をしたお猿で、特に尻の赤味が見事な立派なボスでした。当時80頭位の群をひきいて餌付に応じて来たのですが、相当年令であったのか餌付後の雪男の時代は、3年で終わりました。

第2代目のホテイも又立派でしたが第4ボスで人間の目からはボヤッとしたように見えるのでボス候補時代にはヌケと呼んでいたのですが、若者や婦人層など弱い者いじめをしない大様なところが仲々人気があったので位は低かったのですが、雪男に次いで、2代目のボスとなりましたが、それは3年しか続きませんでした。これにはクヌギと言う第一夫人が他の猿との折角が悪く親和性に欠けていたようで、内助の功に乏しかったと言わべきでしょう。この時代に箕面は暴力猿で問題があり箕面のお山には、猿の社会以外の人間社会からのやむを得ぬ圧力も加わったために群がA、B、Cに分裂しかけるなど大きな変動が起っ

ました。

第3代カオルは、ボス候補と言うよりはむしろ若者頭というところでしたが、母親サクラの応援もあってボスの座についたのですが、しかし、実力のないボスでは群の統卒を継続することが出来ずに僅か1年で、第1夫人も確立しないままに消滅しました。猿の社会においても家庭の建設が出来ない者は落伍者であるということは、人間の社会と同様ではないでしょうか。

第4代目このようなときに老女級のサクラの信任を厚くした赤鬼は急速に全群の信用を高めボスの座につきました。赤鬼の体格は余り良くないですが見事な統卒力を発揮していますので今は少しヨボヨボしているのですが全群も安心して統卒に従っています。

これには赤鬼といわれるだけあって、野犬6頭の侵入に対して全群を護るために身を挺して奮闘した輝かしい功績があるのです。野犬達のチームワークも又巧妙で攻めるもの、待ち構えるもの、秘術をつくす戦闘に、戦い終わったときの赤鬼の左手はだらっと下り、今だにその手は自由が効きません。

赤鬼の全群に対する気の配りは繊細で、餌場から本群を寝ぐらに誘導するときも、最後の若者猿が餌場で充分食事が出来るように徐々に移動するという心使いを持っている名ボスです。姿はあまり見せなくても何時も木陰からちゃんと全群をよく見守っているそうです。

現在箕面の野猿は赤鬼の統卒のもと最も良くまとまっています。

最後に不思議なことは、ボス猿の死体がどうしても見つからないということです、特に雪男などは死期が迫り雪の上でよるよるしていたので、翌朝その附近は勿論、あらゆるところを探したのですが全々見当らなかったそうです。恐らく動物の本能がそのような行動をさせるのでしょうか、象の墓場の話に似ていて不敏に思います。

(松岡 恵爾)

表紙の写真説明

おおづるの親仔

昨年はおおづるが初めてふ化したひなと親づる。つるの親は大変こまやかな愛情を示して心をうたれます。

おおづるのひなを育てる

おおづるはインドなどにおいて、つるの仲間でもひととき大きいのでこの名があります。こんど産卵ふ化させたつるは、おすが37年10月に、めすは34年3月に入園したものです。41年9月に初めて産卵しましたが、このときには初卵を電気ふ卵器に入れ人工ふ化を試みました。そして、第2卵は親に抱かして、第3卵を産みだすのをまじましたが、遂に予定の15日後にも産みませんでした。結局この年はいずれも無精卵でした。今年こそはと思っていざしたら、産卵1カ月前くらいから盛んに小石や枝を集めたりしはじめました。そこで竹箒の穂を入れてやりました。巢材としてわらやよしは湿ってすぐ腐ってくるので結果がよくないだろうということをやめました。そうこうしているうちに、8月1日に初卵、5日に第2卵を産みました。今度は、そのまま親に抱かせることにしました。営巣も抱卵もおすとめすが協同して行なっていました。やはり



めすの方が主にやっていたようです。抱卵中は私が近づくとき非常に警戒して威嚇してきます。9月といえまだまだ残暑酷しく、毎日けんめいに抱きつづけ、そして、一日に何度も卵を回転させたりする努力をみていると何だか親のひたむきな愛情が感じられてなりません。それでできるだけ栄養をとらせようと、ドジョウや中米をたくさんやりました。

ついに1カ月目の9月1日と4日にふ化しました。ひなは、全身うす茶色のうぶ毛におおわれ、嘴も脚も同じくうす茶色でした。親は部屋に飛んでくるハエを上手に嘴で咄えてはひなに与えていました。餌にはミミズ、コオロギも与えました。又、鱈を与えると、親が小さくして与えました。

それから、ひなのために小さいドジョウをよって与えました。

ひなは、日一日と成長していきました。さきにふ化したのと後のとでは、はじめかなり成長に差がありましたが、だんだん同じくらいになっていきました。ふ化後4週間頃には、風切りのふで毛がではじめ、これを親が盛んにつついて抜いたりしますので、血を出して見苦しくなってきました。そんなわけで、とうとう親から分けて育てることにしました。このとき、大きい方の体重が2.35kg、小さい方が1.4kgでした。親から離れたひなたちは、おびえて2~3日は餌を食べませんでした。夜はパネルヒーターを入れてその上に干草を入れてやりました。

5週目頃から中米やひきわりとうもろこし、ドッグフードをアジやドジョウの他に与えました。更にその後チリメンジャコ、シジミ、ボレー粉も与えました。

7週目には風切羽根は殆んどそろっていましたが外に出してやると盛んに羽ばたきをしました。

8週目頃には、うぶ毛からだんだん羽根に変ってきて、全身の色が薄い灰色になってきました。この頃になると2羽の大きさの違いは外見ではほとんど分らなくなり、体重では約300gの差でした。

鳴き声はピョーウ、ピョーウと低い声でした。私はたびたびケージの外に出して歩かせたり、羽ばたきをさせたりして運動させてやりました。低く飛んでもあまり遠くまでいかず立ちどまってこちらを見ていました。今では体格は親と少しも変わらないくらいになり、元気に育っていますが、親のように頸の赤い色などはまだ出ていません。

今年もまたふ化育雛に成功させ、つるのいばい動物園にしたいと思っています。

(池内 春雄)

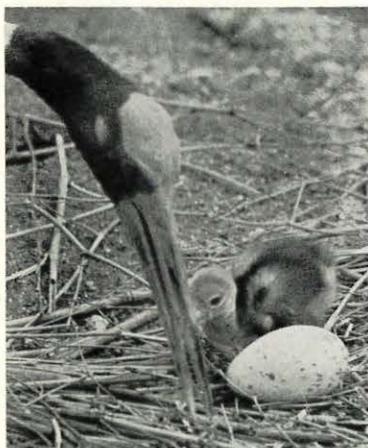
動物園グラフ

“おおづるの産卵、成長記録”

昨年、初めておおづるの「ふ化育すう」に成功しましたので、ここに特集しました。つるの親仔の情のこまやかなところをごらん下さい。



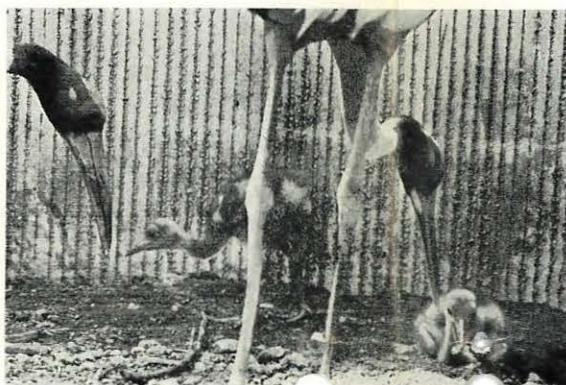
① 8/5 ↑
2卵をうんで抱卵に入る。
卵を回転させているところ。



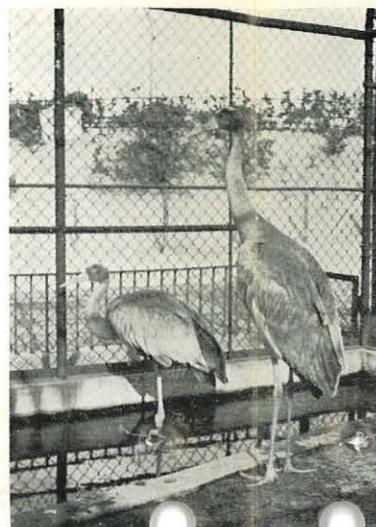
② 9/1 ↑
初卵がふ化した。



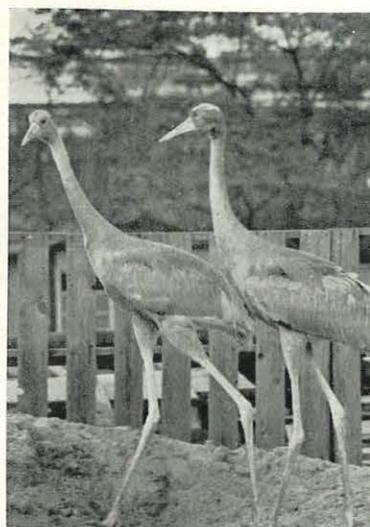
③ ↑
おす、めすが、ひなを大事にしている様子は大変ほへましい。
(右がおす
左は、残りの卵を抱いている)



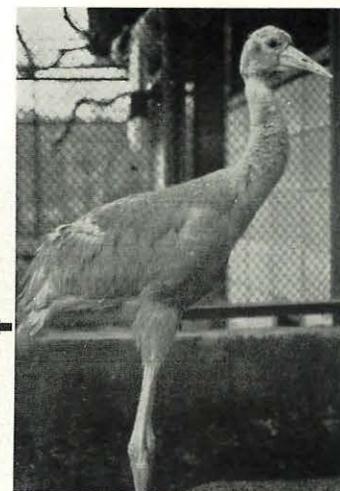
④ 9/10 ↑
夫婦が協同してひなにえさを与えている。



⑩ 12/11 3ヶ月目 ↑
ほとんど親と同じ大きさになった。



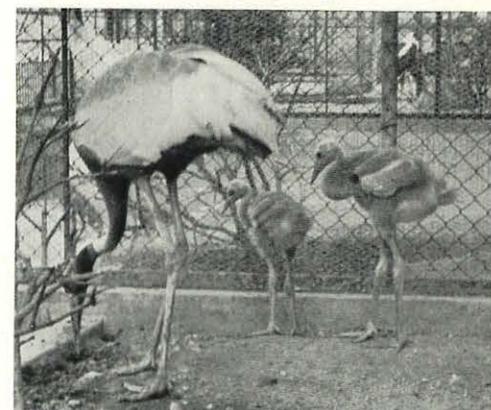
⑨ 11/11 ↑
外に出して散歩させる。



⑧ 11/1 2カ月目 ↑
うぶ毛から、灰色の羽根に変わってきた。



⑦ 10/9 ↑
ひなにフデ毛が出はじめたがこれを親が抜くようになったので親より分離した。



⑥ 9/29 ↑
4週間目、ひなの成長の差がかなりひどい。

1月動物園日記

1. 今年のあたり年のサルたちにお雑煮のお祝をしました。チンパンジーのキャンデーちゃんやヨーコちゃんも晴れ着でおもちをほへばっていました。おとそに酔った客が鉄柵をこえてブチハイエナの檻に指をつっこんだので、ブチハイエナに指を食い切られるという事故がおこりました。
2. ルリコンゴウインコが寄生虫病のため死亡しました。
3. トラのめすに妊娠の徴候が見られ、4月頃には、出産の予

- 定です。
3. キリンのめす前肢に腫れものができましたので治療しています。キリンの足の病気は大変恐いのです。フラミンゴが鉄柵に足をぶつけて骨折し、死亡しました。
4. クジャク舎で病気になって死亡するきじが続出したので、治療にあたる一方、他のキジ類にも一せいにニューカッスルのワクチンの予防接種を実施しました。
6. ピューマの仔のめすが食欲不振が続いていますので治療に動めています。
8. また、フラミンゴが糞にぶちあたり足を骨折し死亡しまし

- た。
10. ピューマの仔や、類人猿の一斉の糞使検査を行いました。ピューマには駆虫薬を与えました。
11. ライオンのおす(飼育年数18年推定23才)が若いおすのライオンに足を咬まれ、衰弱していますので治療をしています。あしかの赤ちゃんが急死しました。
13. ライオンはついに死亡しました。傷の悪化と衰弱による肺炎を併発していました。
15. チンパンジーのパンジーちゃんが流感にかかってねこんで

- しまいましたので治療をしています。
17. アカカンガール1頭がひどい腸炎で急死しました。
19. パンジーちゃんはだんだんよくなりました。ジャコウネコの尾を咬み合いするので短かくする手術をしました。
20. ピューマの仔(めす)は寄生虫による腸炎と、肺炎を併発して死にました。
21. 寒い日が続くと動物たちも体調をくずしやすくなり、病気の動物や死ぬ動物が多くなります。

ペットを訪ねて

“フィンチ類を育てて”

泉佐野市
大川朝生さん

小学生の頃、野雀を追い、育てたその愛情を抱き続けて40年、その間、数多くの天使たちを育てられた経験豊富な大川さんは、現在、関西フィンチクラブの会長さんで、自宅の庭には、スッポリかぶったビニールハウスの鳥小屋が所狭しと建ち列んでいる。

ハウスの中にはきれいな小鳥たちが一ぱい。日の丸鳥、胡錦鳥、小町雀、小紋鳥などフィンチ類が7~8種、総数70~80羽以上の鳥たちが、たくさんな仮母となる十姉妹と一しょに、暖やかな冬陽を浴びて元気に、賑やかに飛び廻っている。

そして毎年、1000羽以上のヒナたちが、ここを故郷として巣立って行く訳で、さぞ毎日の世話が大変だろうと想像される。

早速ヒナを育てるコツをうかがう。
「フィンチ類のふ化を心掛けるには、先ず、近親交配を避けること、日光浴や運動を充分にさすことの二点に尽きます。だからここでは、出来るだけ普段は広い禽舎で飼う事にしています。1m³の大きな庭箱に収容して巣引のシーズンに入る2週間前にオス・メスを別居させておきます。そうして8月中旬に巣引箱に移し同居させます。産卵の終る翌年5月頃までに、一番の親から15回位、卵数にして70~90個位、生む訳で、この間のいろいろな世話が丈夫なヒナを育てるコツと云えます。

普段のエサは勿論、アワ、キビ、ヒエ、カナリヤシートなどですが、巣引中はこれらの他に卵粟（ムキ粟5合に卵3コを加え、少量のカルシウム、蜂ミツを加えたもの）を与えます。オス、メス同居さすと2週間位で初卵をみます。続いて4~5コ平均産卵するので、これを全部取り除くと1~2週間後に2回目の産卵をします。之も亦、全部取り除いて卵はすべて仮母の十姉妹に5コ平均抱かせる訳です。卵は、14日から18日後にふ化



愛鳥と大川さん

するので、親から離す2カ月間は、親と同様に卵粟を与えますが、種食の1/2程度のもが良いようです。

この間は、比較的注意して飼うので、丈夫に育つのですが、親と別居させて独立してから不注意で死なす場合が多いので注意が肝心です。」

こうして毎日、奥様と二人、絶えず小鳥たちの動静に心を配られるので、この家から旅立ったヒナたちの丈夫で長持ちするのがご自慢のタネ。でも旅先で死んだと聞く事が一番つらいそうだ。せめて小さい供養塔でも建て、小鳥たちをなぐさめてやりたいというのが、小鳥を一生の友とした大川さんの願いだ。

あわたしい世相を反映してか、最近では巣引熱がだんだんなくなって、昔の様に技術を競い合うよきライバルが少なくなっていくのをほんとに淋しいことだと嘆いておられました。

(中川道朗)

なきごえ2月号もくじ

- 大阪府下の野猿(箕面のボス猿).....2
- おおづるのひなを育てる.....3
- 動物園グラフ.....4.5
- ペットを訪ねて(フィンチ類を育てて).....6
- 動物園ニュース.....7

動物園ニュース

☆お正月の入園者数

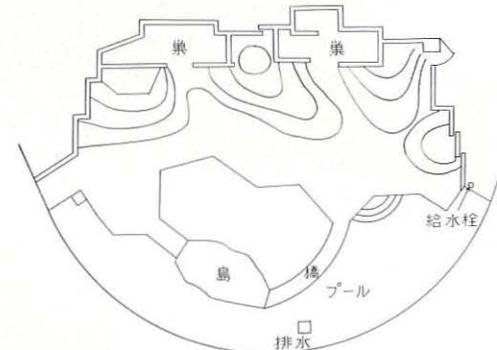
今年のお正月の入園者数は、おだやかな好天気に恵まれて昨年より増加し、初詣での晴着姿で大賑いでした。マイカーによるお客さんの増加で、狭い駐車場でさばききれないと係員は悲鳴をあげていました。

昨年との入園者数の比較(有料入園者数)

	S 42年	S 43年
1日	99	5,879
2日	13,643	19,007
3日	15,048	17,455
4日	7,673	13,289
5日	4,663	9,555
計	41,126	65,189

☆工事進むペンギン放飼場、猛禽舎

昨年来より工事にかかっているペンギン放飼場、猛禽舎は工事が5分通り進んでいます。各放飼場の平面図は下の通りです。



ペンギン放飼場 平面図 図1



猛禽舎 平面図 図2

☆箕面のニホンザルを猿島に

昨年秋より箕面の野猿公園のニホンザルを動物園のサル島におこし入れ願って、大阪市民の皆さんに親んでもらおうという話がもち上っています。動物園のサル島のニホンザルの一群は老化が著しく、これ以上繁殖を望めなくなったので、箕面の野猿公園におす、めず20頭の譲渡を申し入れているものです。野猿公園でも別派行動をするグループがあるので、これを出してもよいとの好意的な返答で実現がまたれていきます。

☆動物の万国博を開こう

世界の動物園へ呼びかけ

万国博を2年後にひかえて動物園では世界の主要動物園に動物の親善交換を呼びかけていましたところ、このほど8カ国9園から交換に応じたいとの大賛成の便りがありました。ベルリン、サンディエゴ、メルボルンなどの動物園の他、京城、台北の動物園も喜んで交換に応じるとのことで、日本特産の動物と各国の特産動物との交換の話が順調に進んでいます。近く、台北からミカドキジ、センザンコウ、韓国からはヌクテ(朝鮮オオカミ)が送られてきます。呉園長が自から日本に出張という熱心振りです。又、大阪市と姉妹都市のサンフランシスコの動物園からラマもやってくることになり、全部で13種34点の珍しい動物たちがやってくる予定で大変たのしみですね。

《入園御案内》

- ★開園時間及休園
 - 3月~10月 午前9時~午後5時
 - 11月~2月 午前9時~午後4時30分
 - ◇閉園30分前で入園券の発売を終わります。
 - ◇12月30・31日のほかは年中無休です。
- ★入園料
 - 普通 大人(13才以上) 60円
 - 小人(5才~12才) 20円
 - 団体 30人以上 大人 54円 小人 18円
 - 50人以上 大人 48円 小人 16円
 - 100人以上 大人 42円 小人 14円
 - ◇中学生は小人料金扱
 - ◇5才未満は無料(但し保護者付添のこと)
- ★駐車場使用料
 - バス 1台 1回 200円(2時間まで)
 - 乗用車 1台 1回 100円(でごとに)
- ★交通
 - 市バス 動物園前下車(南門正面)
 - 地下鉄 動物園前下車徒歩2分
 - 国鉄 天王寺駅下車公園内徒歩10分
 - 近鉄 阿倍野橋下車
 - 南海 恵美須町駅下車徒歩5分

なきごえ 昭和43年2月15日発行（毎月1回15日発行）第4巻第2号（通巻33号）

編集人／和田辰巳 発行所／社団法人大阪市天王寺動物園協会

大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 771-8401

定価 40円

